

## 高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	5単位
年間目標	現代文、古文、漢文の基礎知識を身につけ、読解力の向上を目指す。
使用教科書	東京書籍『国語総合(現代文編・古典編)』
使用補助教材	桐原書店『基礎から学ぶ解析古典文法三訂版 演習ノート』 浜島書店『故事成語に学ぶ基本句法』 いいずな書店『わかる・読める・解ける 古文単語330』 東京書籍『学習課題ノート 現代文編』『学習課題ノート 古典編』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	◇評論① ◆古文入門 ○漢文入門①	「技術が道徳を代行する時」 「水の東西」 「今昔物語集」 「宇治拾遺物語」 「故事成語」「再読文字」	◇中学からの継続としての読解力の向上。 漢字・語句の理解。文明論と文化論の型を把握する。 ◆古文学習の入門としての基礎知識の習得。(単語・分節・用言の活用)説話文学の流れも理解する。 ○漢文学習の入門として、訓点に従い、正しく読めるようにする。書き下し文の練習をする。
	後 半	◇小説 ◆随筆 ○漢文入門②	「羅生門」 「徒然草 つれづれなるままに」 「徒然草 筑紫に」「徒然草 ある人」 「故事成語」 漢文句法	◇小説を読む楽しさを実感させる。 小説読解の基本の習得。 ◆用言の活用を徹底させる。口語訳を通じて、ものの見方を知る。随筆文学の流れも理解する。 ○漢文特有の表現の習得。書き下し文や口語訳の練習をする。
2 学 期	前 半	◇評論② 詩歌 ◆物語 ○唐代の詩文	「〈顔〉という現象」 「小景異情」他 「伊勢物語 東下り」 「伊勢物語 梓弓」 漢詩と句法	◇筆者の主張を理解し、自分の考えをまとめさせる。 近代詩に親しみ、詩の文学史も理解する。 ◆基本的な助動詞、重要単語を覚え、理解を深める。物語文学の流れも理解する。 ○漢詩の決まりを覚える。漢字の意味を考え、口語訳をする。史話の背景を説明する。
	後 半	◇詩歌 ◆紀行 ○史話	「十五の心」「白牡丹」 「土佐日記 馬のはなむけ」 「土佐日記 帰京」 「十八史略 臥薪嘗胆」 漢文句法	近代短歌俳句に親しみ、短歌俳句の文学史も理解する。 ◆助動詞の接続に着目させ、口語訳のための文法理解を深める。日記文学の流れも理解する。 ○史話の背景を思い出させ、漢字の意味を考え口語訳の練習をし、使役の句法(基本)を習得する。
3 学 期		◇評論③ ◆詩歌 ○論語と孟子	「広告の形而上学」 「映像文化の変貌」 「万葉・古今・新古今」 「論語」「孟子」 漢文句法	◇難解な用語等含め、現代文の総まとめとして正確な内容読解力と批評力を身につける。 ◆和歌の修辞技法習得と、文法の総まとめをする。 三大集と八代集の流れも理解する。 ○反語・否定などの基本句形を習得し、漢字の意味を考え、口語訳の練習をする。

評価方法	・1学期、2学期は第1次と第2次試験の平均で、3学期は学年末試験1回で、それぞれ平常点を加味して評価します。
------	--

学習方法	・一語一語の意味を正確に押さえることの積み重ねからしか読解力は身につけません。辞書で根気強く意味調べましょう。古典文法力、漢文の句法は、高校1年でしっかり身につけなければならない基礎です。授業だけでなく、副教材を有効に使ってしっかり学習しましょう。
------	--

注意事項	・国語の読解力は、簡単には身につくものではありません。小説だけでなく、新聞や評論など、いろいろなジャンルの文章を意識して読み進めましょう。
------	---

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	短期の場合は、その時に学習している単元、次に取り組む単元の学習課題ノートを勉強し提出してください。長期の場合はHPで連絡します。
-----------------------	--

## 高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	世界史A(2単位)
年間目標	東洋史の学習を通じて、現代の国際的諸問題にかかわる基礎知識を養成する。
使用教科書	新版世界史A 実教出版
使用補助教材	最新世界史資料 実教出版 / 世界史B演習ノート 実教出版

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	序章 ビッグバンから人類の出現へ 第1章 西アジア世界と地中海世界	先史時代 オリेंट文明 オリेंटの統一 イラン民族の国家	人類の進化、文明の誕生を理解させる。  いわゆる四大文明の成立を概観する。 文化史については倫理との関連に留意するが、思想の詳細な説明など、深入りすることは避ける。
	後 半	第2章 南アジア世界と東南アジア世界 第3章 東アジア世界	インド文明 東南アジア世界と海の道 中国文明の形成	
2 学 期	前 半	第3章 東アジア世界 第4章 中央ユーラシア世界と東アジア世界の展開	中国古代帝国の成立 2世紀までの朝鮮半島と日本列島 中央ユーラシア世界の国家形成 胡漢融合帝国の誕生 3～9世紀の朝鮮半島と日本列島	前近代の中国史を概観する。その際、日本史との関連に留意し、東アジア世界の歴史としての視点を意識させる。  中国歴代王朝と周辺諸国との関係性を理解させる。特に、中国王朝と遊牧民との関わりに留意する。
	後 半	第8章 中央ユーラシア世界と諸地域の交流・再編	中央ユーラシア諸民族と東アジア世界の変容 モンゴル帝国の成立 東南アジア世界の再編 10～13世紀の朝鮮半島と日本列島	
3 学 期		第6章 イスラームの広がり西アジア世界の展開	イスラーム帝国の成立 各地のイスラーム国家 イスラームの都市と文化	イスラーム教の成立からイスラーム帝国の形成・分裂の歴史を概観する。その際、政治・経済との関連に留意し、今日の国際社会におけるイスラーム世界のあり方を意識させる。

評価方法	定期試験による。小テスト・課題プリント・ノート提出などを平常点に加味することもある。
------	--

学習方法	ノートを読み、声に出し、書いて覚える。→ 教科書を読む。→ 補助教材の問題を解いて確認する。出来なかった問題をノートや教科書でチェックする。→ これを繰り返すことにより知識が定着する。
------	--

注意事項	世界史を受験科目として考えている者は、早期の受験準備が肝要である。補助教材などを積極的に活用してほしい。
------	--

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	最新世界史資料を精読し、演習ノートの問題を解く。そうすることで定期試験対策にもなる。
-----------------------	--

## 高校1年生 現代社会 年間指導計画表

教科目(単位数)	現代社会(2)			
年間目標	資料集を活用しながら「政治経済」部分を中心に展開し、現代社会はもとより政治経済のセンター入試問題にも対応できるようなレベルを目標にする。			
使用教科書	実教出版『高校現代社会』			
使用補助教材	実教出版『2016 新政治・経済資料』			
学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第3章 現代の国家と民主政治 1 人権現代の国家と民主政治 2 国民主権と民主政治の発展 1.日本国憲法の成立 2.平和主義	・民主政治の基本原則を理解する。 ・我が国における憲法の成立過程を理解する。 ・日本国憲法の基本的性格について理解する。	民主政治の基本原則を学び、政治教育の重要性を理解させる。 旧憲法と現行憲法の成り立ちや性格の相違について理解させる。 平和主義の現状と課題について言及する。
	後 半	3.基本的人権の保障 4.人権のひろがり 5.人権保障と裁判所 6.政治機構と国民生活	・日本国憲法の基本的性格について理解する。 ・司法権の権能と課題について理解する。 ・我が国の議院内閣制について理解する。	基本的人権の重要性を判例を使って理解させる。 裁判員制度の理解と今後の司法の課題について理解させる。 議院内閣制の特徴を理解し、今の政治の状況を各々の価値観で理解できるようにさせる。
2 学 期	前 半	7 地方自治 8 選挙と政党 9 政治参加と世論 第6章 現代の経済社会と政府の役割 1 経済社会の形成と変容 2 市場のしくみ	・地方自治の機能と今後の可能性を理解する。 ・選挙制度と政党の機能について理解する。 ・政治参加の重要性を理解する。  ・現代社会における企業や政府の働き、労働問題、公害と環境保全について理解させる。	地方自治から、政治参加への糸口を理解させる。 様々な選挙制度とその意義を理解させる。  需要・供給曲線の法則を理解させる。
	後 半	3 現代の企業 4 経済成長と景気変動 5 金融機関のはたらき 6 政府の役割と財政・租税	・技術革新による産業構造の変化や現代企業の変貌、市場の寡占化の問題を理解させる。 ・バブル崩壊と金融、日銀および政府の役割や働きを理解させ、租税の意義を考えさせる。	株式会社の仕組みと企業の社会的責任を理解させる。 金融・財政政策の仕組みと影響を理解させる。
3 学 期		第7章 経済活動のあり方と国民福祉 1 日本経済の歩みと産業構造の変化 2 中小企業と農業 3 公害防止と環境保全 4 消費者問題 5 労働問題と雇用 6 社会保障	・高度成長からバブル崩壊後までの日本経済の歩みを理解させる。 ・現代の経済社会では、環境・労働・社会保障が重要な課題となっていることを理解させる。	現代の日本経済の課題が、高度成長期とは異なるものであることを理解させ、人間生活の豊かさの追及が課題であることを考えさせる。
評価方法	原則として「評価法」通り定期試験により評価する。ただし、必要に応じて課題レポートを課し、平常点の範囲内で加算する場合もある。			
学習方法	座学中心の授業展開。資料集を多用し、『現代社会』の内容よりも踏み込んで学習する。			
注意事項	座学中心なので、生徒が興味を失わないように実際の社会の出来事を取りあげ、より現実的に理解できるよう工夫をする。なるべく資料集を使って授業を展開をし、その内容は『政治・経済』を意識する。			
インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	資料集を使って休暇中の範囲をまとめる。2単位なので、レポート2枚程度でまとめられるため、休養中の負担は少ないと判断した。			

## 高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	数学 I (3単位)
年間目標	各単元において、概念を理解することを目指し、基礎的な知識の習得と処理技能の習熟をさせ、習得した知識・技能を的確に活用する力を伸ばすことを目指します。また、数学的な見方や、考え方のよさを認識できることを目指します。
使用教科書	数研出版『改訂版 高等学校 数学 I』
使用補助教材	問題集 改訂版 4プロセス『数学 I +A』(数研出版) 参考書 フォーカス・ゴールド『数学 I +A』(啓林館)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	1章 数と式 1節 式の計算  2節 実数	1 整式の加法と減法 2 整式の乗法 3 因数分解 4 実数 5 根号を含む式の計算	式についての用語を理解し、見方を豊かにする。基本的な計算ができるようにする。因数分解の公式が利用できるようにし、能率よく計算できるようにする。実数について理解する。根号を含む式の計算ができるようにする。
		3節 1次不等式  3章 2次関数 1節 2関数とグラフ 2節 2次関数の値の変化	6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式  1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	不等式の意味を理解し、性質をもとに解けるようにする。また、文章題に応用する。  関数の概念を理解し、用語を身につける。グラフを利用して問題を解く。最大最小について理解を深め、具体的な問題解決に活用する。与えられた条件から2次関数を決定する。
	2 学 期	前 半	3節 2次方程式・2次不等式  4章 図形と計量 1節 三角比	5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式  1 三角比 2 三角比の相互関係
後 半			2節 三角形への応用	3 三角比の拡張 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用
3 学 期	学 期	5章 データの分析  総復習	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関  到達度テスト練習	データの特徴をとらえて整理できるようにする。また、さまざまな要素をもとにデータを分析できるようにする。2つの変量の相関をとらえることができる。  1年のまとめ

評価方法	1 定期試験の成績 知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題します。 2 学習態度等の平常点 課題の提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価します。 1、2を本校評価法に合わせて判断します。
------	---

学習方法	1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる 2. 要点をノートにまとめる	予習の時
	3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する 4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する 5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める 6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)	

注意事項	数学の問題の解法は、設問に対して、定義やルールに従って複数のプロセスを経て論理的に展開され、結論が導き出されるものです。単に数学の定義や 定理・公式などの「知識」や問題解法を単発的に丸暗記し、知識量を増やしたとしても、それらを単純にあてはめる事で問題が解けるようになることはありません。問題を解くには、まずはそのパターンを認識できるかが大切だと思います。数学の問題を解くにあたって考えるというのは、問題文を読んで、問題が示す条件と既知の知識との間に類似性と差異を見出すことなのだと思います。そこで復習が大事になります。理由の一つは、「自分が何をどれくらい理解できているのか」「何が理解できていないのか」を明確にすることです。自分の理解が十分な部分、または弱点を把握しておく、ということは、その後の学習計画を立てる際に大いに参考になるはずです。もう一つは「問題を見て、解法の「第一手」が頭に浮かぶかどうか」「解答の流れが頭の中で再生できるかどうか」を確認することです。
------	---

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	インフルエンザ等による長期休業中は、教科書とノート(数学 I とAは別)を用いて予習を進めておきましょう。方法としては、始めに用語や記号の定義や公式をまとめ、その後に例と例題の問題文と解説・解答を書き写します。その際、疑問点などを書き加えておくとう良いでしょう。例や例題を写し終えたら、それらを参考にして問いに挑戦してください。上記の学習の方法を参照してください。シラバスに載っている授業計画をよく見て、どの程度進めるべきかを確認するようにしてください。
-----------------------	---

# 高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	数学A(3単位)
年間目標	各単元において、概念を理解することを目指し、基礎的な知識の習得と処理技能の習熟をさせ、習得した知識・技能を的確に活用する力を伸ばすことを目指します。また、数学的な見方や、考え方のよさを認識できることを目指します。
使用教科書	数研出版『改訂版 高等学校 数学A』
使用補助教材	問題集 改訂版 4プロセス『数学 I + A』(数研出版) 参考書 フォーカス・ゴールド『数学 I + A』(啓林館)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	2章 図形の性質 1節 平面図形	1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線	中学で学んだものを復習し、証明のしかたを身につける。 三角形の五心について理解する。 チェバとメネラウスの定理を理解し、活用する。 円の基本性質、演習額の定理など復習する。 円に内接する四角形、接線との関係などを復習し、理解を深める。
	後 半	2節 空間図形	6 2つの円 7 作図 8 直線と平面 9 空間図形と多面体	方べきの定理・2つの円の位置関係を理解し、図形に対する見方を理解する。 基本的な作図をもとに、さらに高度な作図を表現する。 中学での空間図形の内容を踏まえ、さらに性質を論理的に理解する。
2 学 期	前 半	(数学 I) 2章 集合と命題  (数学A) 1章 場合の数と確率 1節 場合の数	1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明  1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列	集合と要素、集合の表し方など、集合に関する知識と記号の意味を理解する。 命題と条件についての定義を理解し、論理的な思考力を身につける。  有限集合の和集合の要素の個数を求めることを学び、応用する。 樹形図を利用して、総数を求める。 順列の意味を理解し、円順列や重複順列など、様々な考え方をできるようにする。
	後 半	1節 場合の数 2節 確率	4 組合せ 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率	組合せの意味を理解し、応用問題を理解する。 試行と事象、確率について学び、数量的にとらえることの有用性を認識する。 確率と集合との関連を学ぶ。 独立試行・反復試行の確率を理解する。 具体的な事象を考察し、処理をする。
3 学 期		2章 整数の性質 1節 約数と倍数  2節 ユークリッドの互除法と不定方程式  3節 整数の性質の活用	1 約数と倍数 2 最大公約数と最小公倍数 3 整数の割り算と商・余り 4 ユークリッドの互除法 5 1次不定方程式 6 分数と小数 7 n進法	整数に関する約数・倍数の意味を理解し、求められるようにする。 整数の除法の性質を理解し考察する。 また、それに基づいてユークリッドの互除法を活用する。 身近な10進法を理解し、2進法3進法などを用いて表現できるようにする。

評価方法	1 定期試験の成績 知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題します。 2 学習態度等の平常点 課題の提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価します。 1、2を本校評価法に合わせて判断します。
------	---

学習方法	1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる 2. 要点をノートにまとめる 3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する 4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する 5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める 6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)	} 予習の時  } 復習の時
------	---	----------------------

注意事項	数学の問題の解法は、設問に対して、定義やルールに従って複数のプロセスを経て論理的に展開され、結論が導き出されるものです。単に数学の定義や定理・公式などの「知識」や問題解法を単発的に丸暗記し、知識量を増やしたとしても、それらを単純にあてはめる事で問題が解けるようになることはありません。問題を解くには、まずはそのパターンを認識できるかが大切だと思います。数学の問題を解くにあたって考えるというのは、問題文を読んで、問題が示す条件と既知の知識との間に類似性と差異を見出すことなのだと思います。そこで復習が大事になります。理由の一つは、「自分が何をどれくらい理解できているのか」「何が理解できていないのか」を明確にすることです。自分の理解が十分な部分、または弱点を把握しておく、ということは、その後の学習計画を立てる際に大いに参考になるはずですが、もう一つは「問題を見て、解法の「第一手」が頭に浮かぶかどうか」「解答の流れが頭の中で再生できるかどうか」を確認することです。
------	---

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	インフルエンザ等による長期休業中は、教科書とノート(数学 I とAは別)を用いて予習を進めておきましょう。方法としては、始めに用語や記号の定義や公式をまとめ、その後に例と例題の問題文と解説・解答を書き写します。その際、疑問点などを書き加えておくとい良いでしょう。例や例題を写し終えたら、それらを参考にして問いに挑戦してください。上記の学習の方法を参照してください。 シラバスに載っている授業計画をよく見て、どの程度進めるべきかを確認するようにしてください。
-----------------------	---

## 高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	化学基礎(2単位)
年間目標	自然科学についての知識を得ることの意味を理解し、興味を持って積極的に化学を学べるようになること。 化学を学習する際の基盤を形成すること。
使用教科書	第一学習社 『高等学校 化学基礎』
使用補助教材	第一学習社 『セミナー化学基礎+化学』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第I章 物質の構成	第1節 物質の成分と構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表 第3節 物質と化学結合 ①イオンとイオン結合	物質の分類ができ、分離法について理解する。 原子の構造と周期表の仕組みを理解する。 イオンの存在を知り、イオン結合の仕組みを理解する。 組成式が書ける。
	後 半	第I章 物質の構成	第3節 物質と化学結合 ②分子と共有結合～⑤金属の結晶格子	各種結合および結晶について理解する。 極性などの力についても理解する。 電子式、構造式、分子式が書ける。 溶解の仕組みを極性に絡めて理解する。 分子式と組成式の使い分けが出来る。 化学反応式が書ける。
2 学 期	前 半	第II章 物質の変化	第1節 物質質量と化学反応式 ①原子量・分子量と式量～⑤化学変化と化学の基本法則	有効桁数の計算について理解し、計算できる。 原子量と分子量の概念を理解する。 物質質量の概念を理解し、質量・体積との単位変換ができる。 化学の諸法則についても知る。 濃度計算ができる。 量的関係を理解し、計算することができる。 状態変化が粒子の熱運動と関連が深いことを理解し、理屈が説明できる。
	後 半	第II章 物質の変化	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基～④中和滴定	酸と塩基の定義を知り、適切に分類できる。 電離と絡めた強弱の関係を知り、水素イオン濃度を求められる。 pHの計算ができる。 塩について理解し、適切に分類できる。 中和の量的関係を理解し、計算できる。
3 学 期		第II章 物質の変化	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元～④酸化還元反応の利用	酸化数の概念を理解できる。 酸化数から酸化還元反応へ考察することができる。 イオン化傾向について理解できる。

評価方法	1 定期試験の成績 2 学習態度等の平常点 1、2を本校評価法に合わせて判断する。
------	---

学習方法	授業中に行う問題演習、および問題集を使った演習を行う。
------	-----------------------------

注意事項	週2単位であるため、適宜復習を促し、前回の確認などを踏まえながら授業を展開していく。
------	--

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	問題集における今年度の既習内容について、各自演習しておくこと。
-----------------------	---------------------------------

## 高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	生物基礎(2単位)
年間目標	生物学を通して、日常の生物学的現象との関連性に気付かせ、興味・関心を向上させる。
使用教科書	数研出版 『生物基礎』
使用補助教材	数研出版 『リードα 生物基礎+生物』 浜島書店 『新生物図表』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第1章 生物の特徴 1 生物の多様性と共通性 2 エネルギーと代謝 3 呼吸と光合成	生物の多様性・起源 生物の特性 細胞説 細胞の多様性 細胞の構造 代謝 ATP 光合成 呼吸	なぜ生物が多様化したのかを検証する。細胞の構造と機能について基本的な知識を学ぶ。動物の組織と植物の組織を学習する。細胞が行う代謝のメカニズムを理解する。
	後 半	第2章 遺伝子とそのはたらき 1 遺伝情報とDNA 2 遺伝情報の発現 3 遺伝情報の配分	遺伝子の本体 DNAの構造 細胞分裂・細胞周期・DNA量の変化 タンパク質合成	遺伝子の本体がDNAであることを理解させる。分子生物学の基礎であるセントラルドグマのメカニズムを理解させ、現代のバイオテクノロジー中心の命題であることを学ばせる。
2 学 期	前 半	第3章 生物の体内環境 1 体液という体内環境 2 腎臓と肝臓 3 神経とホルモンによる調節 4 免疫	恒常性 体液の浸透圧調節 腎臓の構造と機能 肝臓の構造と機能 自律神経系 ホルモン 免疫の種類 アレルギー 拒絶反応 免疫の利用	内部環境が一定に保たれているしくみを学ぶ。生体防御の種類とそれぞれの特性を理解する。恒常性は、自律神経系とホルモンによって調節されていることを知る。
	後 半	第4章 植生の多様性と分布 1 さまざまな植生 2 植生の移動 3 気候とバイオーム	環境とバイオーム ラウンケルの生活形 植生の成り立ち 光合成と植生	植物が行う越冬は、植物体構造と関係していることを気付かせる。植生と環境との関連性について学ぶ。世界および日本の植生と環境要因との関連性について各論的に学ぶ。
3 学 期		第5章 生態系とその保全 1 生態系 2 物質循環とエネルギーの流れ 3 生態系のバランス 4 人間活動と生態系の保全	生態系の成り立ち 食物連鎖 栄養段階 物質の循環 環境問題 ラムサール条約 特定外来生物法	生態系は生物的環境と非生物的環境で成り立っていることを学ぶ。食物連鎖と栄養段階の変化を理解する。生態系の保全のため、世界レベルで実施されている活動を学ぶ。

評価方法	1 定期試験の成績 2 提出物(問題集・授業用ノート・実験レポート)、学習態度等の平常点 1、2を本校評価法に合わせて判断する。
------	--

学習方法	授業内容の定着を達成するために、問題集(基礎的な問題を中心)で定着をはかる。 昨年度の学習内容の定着させるために、課題や小テストを実施し、定期テストに備える。 定期テスト対策として、基礎基本問題の解法だけでなく、考察問題の解法も講義する。
------	---

注意事項	授業を休まないこと。授業を真剣に受けること。授業に積極的に参加すること。問題を何度も解き直すこと。
------	---

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	問題集を扱います。
-------------------------------	-----------

## 高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	保健体育(3単位)
年間目標	中学時代に養われた基礎体力を見直し、よりいっそうの体力向上を心がけ運動能力を高めスポーツの本当の楽しさや感動を味わい自らの適性を見出す。また指導力をも身に付け、良識ある社会人、生涯スポーツへの基盤となるようつとめる。
使用教科書	大修館『イラストでみる最新スポーツルール』
使用補助教材	

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期		集団行動 サッカー(男子A・B・C・D) バレーボール(男子E・F・G・H)	集団行動 姿勢 方向転換 集合 整列 列の増減 行進 ラジオ体操  バレーボール パス オーバーハンドパス アンダーハンドパス サーブ フローターサーブ 対人パス 8の字パス 円陣パス パスコントロール スパイク 簡単なゲーム	集団行動 スポーツをする際に必要となる集団行動の基本を身につける。 バレーボール 基本的な技術を習得し、今後試合に向けての移行をスムーズにする。相手のことを考えて練習し、協調性を養う。 単調になりがちなパス練習を、いろいろな練習方法を取り入れることによって飽きさせない工夫をする。ボールの扱い方を覚えさせる。
		バスケットボール(女子)	バスケットボール パス チェストパス ハウンスパス ドリブル ドリブルシュート シュート 2メン 3対3 5対5	バスケットボール 技術の習得及びルールの理解を深め円滑に試合が進行できるようにする。ルールやマナーを守る態度を養う。 トラベリング・ダブルドリブル・パーソナルファウルについて理解させる。全員がオフェンスとディフェンスの切り替えができるようにする。
2 学 期		バレーボール(男子A・B・C・D) バスケットボール(男子E・F・G・H) サッカー(女子)	サッカー キック インサイドキック アウトサイドキック ドリブル シグザグドリブル フェイントドリブル シュート 簡易ゲーム	サッカー 基礎的な技術を身につけ、組織的にゲームを進行できるようにする。チームプレーを重視し、皆が楽しくプレーできるようにする。 インサイドキックを中心に細かくパスをつなぎ、強いボールでけが人が出ないように注意する。
		バスケットボール(男子A・B・C・D) サッカー(男子E・F・G・H) マット運動(女子)	マット運動 回転系練習 前転 後転 開脚前転 開脚後転 伸膝後転 倒立前転 跳びこみ前転 側方倒立回転	マット運動 前転→跳びこみ前転 伸膝後転→後転→開脚後転 倒立前転→開脚前転→側転→バランス ちょっとしたミスが怪我につながりやすいので、常に体調を整え、気を引き締めて行う。 仲間との練習で互いに補助しあい、生徒と協力をして行う。

評価方法	ラジオ体操 バレーボール 対人パス(オーバー・アンダー) パスコントロール サーブ バスケットボール ドリブルシュート(左右) フリースロー サッカー 各種シュート マット運動
------	--

学習方法	男女別で、男子はクラス単位、女子はAF・BE・CG・DH合同で行う。
------	------------------------------------

注意事項	服装を整え(頭髪・つめ・学校指定の体育着を着用)、準備運動・補強運動をしっかりと行う。
------	---

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	
-----------------------	--



## 高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	保健体育(3単位)
年間目標	個人および集団、家庭や地域社会、国、地球全般における生活環境や健康問題、人類の平和と健康に積極的に協力する態度や正しい知識を身に付け社会生活に生かせる能力をそだてる。
使用教科書	大修館『現代高等保健体育(改訂版)』
使用補助教材	大修館『現代保健ノート』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期		現代社会と健康	「わたしたちの健康のすがた」から 「休養・睡眠と健康」まで	今日我々が暮らす社会はとても豊かだが、生活習慣病や薬物、また心の問題など健康にかかわる問題は少なくない。また、時代の流れの中で健康自体の捉え方や健康のために人や社会に望まれることも変化してきている。そこで現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方などについて学習する。
2 学 期		現代社会と健康	「喫煙と健康」から 「欲求と適応機制」まで	
3 学 期		現代社会と健康	「心身の相関とストレス」から 「日常的な応急手当」まで	

評価方法	期末試験による評価
------	-----------

学習方法	副教材、保健体育ノートを使用し、教科書にそって保健体育ノートを活用する。また、各参考資料を使い、生徒に印刷物として配布し授業の充実をはかる。
------	--

注意事項	人間の一生の中で高校生の時期は大変重要な意味を持っている。健康を保つことだけでなく社会的な自己の確立を目指す意味で理解を深める。単に教科書を進めるのではなく、いろいろな方向から「健康を保つためには」をテーマに授業を展開する。
------	--

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	
-------------------------------	--

平成29年度 高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	週2時間
年間目標	音楽の基礎的な技術や知識を応用し、音楽を通して自己を表現することを学ぶ。 (中学で培った基礎を基に、問題解決型の学習形態を取る)
使用教科書	「MOUSA1」教育芸術社
使用補助教材	特になし

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	○合唱 花 ○器楽 ギター ○鑑賞 バロック、古典派	日本歌曲に親しむ ギターに親しむ バロック、古典派の作品に親しむ	日本語の持つ美しさを感じ取り、情景を思い浮かべ、表情豊かに表現させ、アポヤンド奏法、アルアイレ奏法の基本を習得させる。 バロック、古典派の特徴を理解させる。
	後 半	○器楽 ギター ○鑑賞 バロック、古典派	ギターに親しむ バロック、古典派の作品に親しむ	アポヤンド奏法、アルアイレ奏法を生かし、楽曲に取り組む。 バロック、古典派の特徴を理解させ、その良さを感じ取らせる。
2 学 期	前 半	○歌唱 Caro mio ben ○創作 コード、作編曲 ○器楽 バンド譜の演奏	イタリア古典歌曲に親しむ コードを理解し、簡単な作編曲をする バンド譜を演奏する	イタリア語での歌唱、ベルカント唱法に親しみ、表現の幅を広げさせる。 コードを理解し、簡単な作編曲ができるようにする。 バンド譜を読めるようにし、バンドアンサンブルに親しむ。
	後 半	○器楽 さくらさくら(三味線) ○鑑賞 ロマン派 ○歌唱 教科書より数曲	日本の楽器に親しむ ロマン派、印象派の作品に親しむ 様々な楽曲に親しむ	三味線の基本的な奏法を体験させ、日本の文化に親しみをを持たせる。 ロマン派の音楽の特徴を理解させ、その良さを感じ取らせる 様々な楽曲に親しみ、それぞれの特徴を踏まえて歌唱させる。
3 学 期		○鑑賞 近代、現代 ○合唱 翼をください、他数曲	近代、現代の音楽に親しむ 歌詞の内容を吟味し、表現に生かす	組曲の特徴を掴み、イメージを持って音楽を聴かせる。 歌詞の内容を吟味し、心を込めて歌うことで、より表現をさせる。

評価方法	実技試験(歌唱・器楽)、ノート検査を学期ごとに数回行い、採点する。
------	-----------------------------------

学習方法	・器楽、歌唱 楽譜を正しく読み、音として表現する。また、表現の工夫をし、自分なりの演奏をできるようにする。 ・鑑賞 楽曲の成り立ちや作曲家について理解する。また音楽を形作っている様々な要素を感じ取り、自分なりの感想を文章で表現できるようにする。
------	---

注意事項	特になし
------	------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	特になし
-------------------------------	------

平成29年度高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	2単位
年間目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
使用教科書	日本文教出版高校美術1 116-日文・美1-302
使用補助教材	

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	鉛筆デッサン	幾何形相関貫体(12面体)	正確な形・立体感・空間の表現。形(辺の長さ)6種類の影・鉛筆の濃淡が表現出来たか。
	後 半	平面構成	顔の明暗の単純化	単純化することにより個性(特徴)をより明確にする。4段階の明暗を色彩のグラデーションに置き換える。
2 学 期	前 半	鉛筆透明淡彩	球の特徴をもつ立体	鉛筆による球の表現。絵の具による空間表現。曲線表現と曲面、絵の具の水の量による強弱と遠近感。
	後 半	平面構成	波状線を使用したバランスによる構成	バランスの意味の理解と使用。美しい配色の法則。共通性の美。
3 学 期		静物画	パステルによる野菜・果物	三角形の構図、上下の遠近(空間)、明るい配色。安定感、遠近による物の見え方、濃淡による強弱。

評価方法	提出作品・制作態度
------	-----------

学習方法	参考作品の提示・一人一人実技指導
------	------------------

注意事項	丁寧な制作・個性を重視
------	-------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	レポート提出
-----------------------	--------

平成29年度 高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	芸術科・書道 (2単位)
年間目標	書道の古典の臨書を通して表現の多様性を学び、それに基づいて自己の表現力を培う。芸術を尊ぶ心を養う。
使用教科書	教育出版『書道1』
使用補助教材	特になし。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	書の芸術性、書の美を求めて。楷書の学習。	九成宮醜泉銘、孔子廟堂碑、雁塔聖教序の鑑賞と臨書。	三種の古典の比較をとおしてそれぞれの特徴と書法を理解し、楷書の基本的な用筆法を習得する。
	後 半	楷書の学習。	鄭羲下碑と牛橛造像記の鑑賞と臨書。	両古典の比較をとおしてそれぞれの特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。
2 学 期	前 半	行・草・篆書の学習。	蘭亭序の観賞と臨書。亭十三跋の鑑賞と臨書。と行書の比較。と草書の表現学習。	規範となる行書を生み出した王羲之の書道史上の重要性を理解する。趙孟頫の蘭亭序の学習と態度と成果を理解する。
	後 半	隸書の学習。	隸書の特徴。曹全碑の鑑賞と臨書。木簡の鑑賞と臨書。	基礎的な隸書の学習により、隸書の特徴を理解し、用筆、運筆、結構法を習得して表現力を高める。
3 学 期		書道作品制作。	楷書・行書・草書・篆書・隸書・仮名を素材にして、自由に書く。	自分にしか表現できない書作品を制作する。

評価方法	・技術的な向上を心がけて意欲的に授業に臨む姿勢を重んずる。書展の鑑賞を通じてのレポートなど積極的な取り組みを評価する。作品の提出物による技術面の評価を行う。
------	--

学習方法	古典の作品の臨書を中心とし、随時添削指導を行う。
------	--------------------------

注意事項	古典を正確に模倣する忠実な臨書を行うことは大事であるがそれに固執せず、生徒の個性を尊びそれをより良く開花できるようにすることを心がける。
------	--

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	作品鑑賞によるレポート課題
-----------------------	---------------

平成28年度 高校1年「コミュニケーション英語Ⅰ」 年間指導計画表

教科目(単位数)	高校1年 コミュニケーション英語Ⅰ (3単位)
年間目標	・英語検定3級合格率100%、準2級合格率70% ・スタディーサポート偏差値50以上
使用教科書	UNICORN English Communication 1 (文英堂)
使用補助教材	UNICORN English Communication 1エッセンシャルワークブック (文英堂) WORD NAVI4500 (啓林館)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	■LESSON1 I Am a Photojournalist  ■LESSON2 Holmes and Watson	① 進行形 ② 助動詞 ③ 不定詞 ① 現在完了(進行)形 ② 受動態 ③ 文の構造	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
	後 半	■LESSON3 Alma Rose  ■LESSON4 Forests for the Future	① 不定詞を含む構文 ② 分詞の形容詞的用法 ③ 動名詞 ① 関係代名詞: who / which / whose / ② 関係副詞: when / where / why ③ 関係代名詞: what	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得 ・スピーチコンテストの実施
2 学 期	前 半	■LESSON 5 Methane Hydrate  ■LESSON6 El Sistema : The Miracle of Music	①S+V(+O)+O(疑問詞+不定詞) ②S+V(+O)+(if節/疑問詞節) ③S+V(be動詞)+O(疑問詞+不定詞) ① 過去完了形と過去完了進行形 ② S V O C[=現在分詞/過去分詞] ③ S V O C[=原形不定詞]	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
	後 半	■LESSON7 Why are you sleepy?  ■LESSON8 Haruki Murakami Abroad	① 仮定法過去 ② It is ~ + that節 *形式主語構文 ③ 助動詞 + have + 過去分詞 ① 前置詞 + 関係代名詞 ② 分詞構文(現在分詞) ③ 関係代名詞の非制限的用法	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
3 学 期		■LESSON9 Vertical Farming  ■LESSON10 Words and You	① 未来完了形: will have + 過去分詞 ② if節のない仮定法など ③ 仮定法過去完了 ① 完了形の受動態 ② 進行形の受動態 ③ 関係副詞の非制限的用法	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得

評価方法	・定期テスト ・小テスト ・提出物
------	-------------------------

学習方法	教科書を中心に授業を進め、Reading, Listening, Speaking, Writingの4技能を伸ばす。特に文法事項の習得と語彙数の増加を重視し、教科書で使用されている表現を徹底して繰り返し学習させる。
------	--

注意事項	・2学期、3学期はじめにスプリングコンテストを実施する。 ・コミュニケーション英語と英語表現の学習内容をリンクさせるようにする。
------	---

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	演習プリントを用意し、授業で習ったことの復習・定着をはかる。
-----------------------	--------------------------------

平成28年度 高校1年「英語表現Ⅰ」 年間指導計画表

教科目(単位数)	高校1年 英語表現Ⅰ (2単位)
年間目標	・英語検定3級合格率100%、準2級合格率70% ・スタディーサポート偏差値50
使用教科書	UNICORN English Expression 1 (文英堂)
使用補助教材	INSPIRE 28Units (文英堂) INSPIRE 総合英語(文英堂)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	8章 ■助動詞(1) 9章■助動詞(2) 2章 ■文型(1) 3章 ■文型(2) 5章 ■時制(2) 11章 ■受動態(1) 13章 ■不定詞(1) 6章 ■時制(3) 7章 ■時制(4)	□助動詞 □第1文型～第5文型 □現在[過去/未来]進行形 □受動態 □不定詞の3用法 □現在完了形と副詞(句) □現在完了進行形	・文法事項を理解する ・文法事項を用いて、問題演習を行う ・文法事項を用いて、英語で表現を する
	後 半	15章 ■不定詞(3) 18章 ■分詞(1) 17章 ■動名詞 23章 ■関係詞(1) 24章 ■関係詞(2)	□S V + to不定詞 □be動詞 + to不定詞 □S V O + to不定詞 □It is ～ + to不定詞 □S V it C + to不定詞 □名詞を修飾する分詞	・文法事項を理解する ・文法事項を用いて、問題演習を行う ・文法事項を用いて、英語で表現を する
2 学 期	前 半	14章 ■不定詞(2) 27章 ■接続詞 28章 ■疑問詞 7章 ■時制(4) 16章 ■不定詞(4) 25章 ■仮定法(1)	□未来完了形/未来完了進行  □疑問詞+不定詞 □whether節/if節 □間接疑問	・文法事項を理解する ・文法事項を用いて、問題演習を行う ・文法事項を用いて、英語で表現を する
	後 半	10章 ■助動詞(3) 18章 ■分詞(2) 24章 ■関係詞(2) 25章 ■仮定法(1) 26章 ■仮定法(2) 27章 ■接続詞	□過去完了形と過去完了進行形 □不定詞を含む慣用表現を除く □仮定法過去完了を除く  □助動詞 + have + 過去分詞 □分詞構文	・文法事項を理解する ・文法事項を用いて、問題演習を行う ・文法事項を用いて、英語で表現を する
3 学 期		11章 ■受動態(1) 24章 ■関係詞(2) 7章 ■時制(4) 25章 ■仮定法(1) 26章 ■仮定法(2)	□関係詞の2用法 □名詞節を含む構文  □進行形・完了形の受動態 □関係詞の2用法	・文法事項を理解する ・文法事項を用いて、問題演習を行う ・文法事項を用いて、英語で表現を する

評価方法	・定期テスト ・小テスト ・提出物
------	-------------------------

学習方法	「INSPIRE 28units」を中心に授業を進め、文法の運用能力を伸ばす。コミュニケーション英語Ⅰで学習した文法事項を演習を通して習熟させ、宿題での繰り返し学習により定着させる。
------	---

注意事項	コミュニケーション英語と英語表現の学習内容をリンクさせるようにする。
------	------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	演習プリントを用意し、授業で習ったことの復習・定着をはかる。
-----------------------	--------------------------------

## 高校1年生 英語会話 年間指導計画表

教科目(単位数)	<b>英語会話(1単位)</b>
年間目標	リスニング及びスピーキング能力を高め、受動的な学習にとどまらず、自らが積極的にコミュニケーションを取ることができるようになる。異なる文化を理解し尊重する態度を身につける。
使用教科書	<b>Sailing English Conversation (啓林館書店)</b>
使用補助教材	・ワークシート(Global English Ins.作成)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	UNIT1 Warm-up 1	English Around the World ・自己紹介	・さまざまな人の自己紹介を聞き、必要な情報を得る方法を学ぶ ・自己紹介の方法を学ぶ
	後 半	Warm-up 2	People Around Us ・他人の紹介	・他人紹介を聞き、必要な情報を得る方法を学ぶ ・友人や周囲の人を紹介する方法を学ぶ
2 学 期	前 半	UNIT2 Lesson 1	What Day Is Convenient for You? ・学校生活—海外の高校生活 ・相手の都合を尋ねる疑問文  Speech 1	・学校生活について必要な情報を得たり、会話したりする方法を学ぶ ・自分の予定を述べたり相手の予定について質問したり、誘ったりする方法を学ぶ
	後 半	Lesson 2	How was the last Sunday? ・週末の出来事—若者の休日の過ごし方 ・過去形の疑問文 ・should have+過去分詞:「～すべきだったの	・過去の出来事について質問したり答えたりする方法を学ぶ ・できなかったことを後悔する表現を学ぶ ・シャドウイングの方法を学ぶ
3 学 期	前 半	Lesson 3	Could I Have an Extra Blanket? ・機内—空港や機内の様子	・機内を想定して、自分の要求を依頼する方法を学ぶ
	後 半	Lesson 4	・許可を求める疑問文・命令文 ・May I ~ ? Could I ~ ? Please ~. Who's Calling, Please? ・電話—電話の歴史 ・have+人+動詞の原形: 人に～させる・してもら Speech 2	・機内アナウンスから必要な情報を聞き取る練習をし、禁止表現を学ぶ ・電話での応答表現を学ぶ ・電話で必要な情報を得る練習をする ・誘ったり誘いを受ける(断る)際の表現を学ぶ ・留守番電話のメッセージの作り方を学ぶ
3 学 期		Lesson 5	How Can I Get There? ・道案内—街のようす ・道を尋ねる疑問文、感謝の表現 ・how to do ~ : 「～する方法」 Show & Tell My favorite city, Singapore Speech 3	・人に道を聞く時、聞かれた時の応答の仕方を学ぶ ・感謝および感謝に応答する表現を学ぶ  ・紹介したい写真や物を持参させ、英語で説明する ・効果的な話し方を練習する

評価方法	各学期末の定期試験の得点(リスニング60点+ライティング30点)と、授業時に行うスピーチ(10点)との合計100点満点とし、提出物や授業への取り組みも含めて総合的に評価する。
------	---

学習方法	・授業は原則として英語のみで行う。 ・グループワーク等の実技の際にも、なるべく英語でコミュニケーションを図るようにする。
------	---

注意事項	・教科書・ネームカード・A4クリアファイルを毎回必ず持参すること。
------	-----------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	・教科書の既習部分及び配布プリントを何度も音読し、暗誦する。 ・教科書の未習部分を読み進め、問に解答する。
-----------------------	--

平成29年度・高校1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	2単位(週2時間)
年間目標	衣食住の知識を深め、生活に役立つ技術を習得し、実社会に適応し、より豊かな生活ができるようにすることを目標とする。
使用教科書	教育図書「新家庭基礎」
使用補助教材	「トータルデータ 家庭科ガイドブック 資料集+成分表」 教育図書 「知っておきたい食べ物の話」 教育図書

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	Ⅰ 人とかかわる	第1章 青年期と家族	青年期の発達課題を学び、自分の生活や将来について考える。 家族や家庭、それらに関する法律を理解し、現代の家族を取り巻く環境を考える
	後 半		第2章 保育 第3章 高齢期	子どもの成長・発達の特徴を知り、子どもとともに過ごす楽しさを体験する 幼児の生活習慣の重要性を知り、家族が果たす役割を理解する 高齢者の心身の特徴を知り、高齢期の生活を充実させるための方策を考える
2 学 期	前 半	被服製作	1 イージーパンツ製作( ミシン )	ミシンの使い方を理解し、縫製作業ができるようになる 製作に必要な用具を準備し使い方を理解する
	後 半		2 基礎縫い( 手縫い )	衣生活の自立のために、衣服素材を理解し、手入れや補修ができるようにする。
3 学 期	前 半	Ⅱ 暮らしをつくる	第4章 食生活	どのような栄養素をどのくらい摂ればよいか、また栄養素の種類と働きを理解し、日々の食生活にいかせるようにする
	後 半		第5章 衣生活 第6章 住生活	衣服の変容を知り、現在の衣生活を考える 既製品の購入、洗濯、保管の仕方を理解する 様々な住居を知り、安全で快適な住生活を見つめ直す
3 学 期			第7章 消費生活・環境	販売方法、支払方法の種類と特徴を知り、情報化社会における消費者の役割について考える 環境問題に目を向け、環境に配慮した暮らしについて考える

評価方法	1・定期試験 2・授業態度 3・実習態度 4・提出物 ( ワークノート、課題を含む ) 5・小テスト
------	--

学習方法	教科書と授業ノートをよく見て、理解を深める
------	-----------------------

注意事項	被服実習の際に、家庭に持ち帰って課題をすることを禁じる。万が一行った場合は被服実習の点数はなしとする。
------	---

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	教科書及び副教材の精読を通じて、知識の定着を図る。
-----------------------	---------------------------